

## 抄 録

## ラベンダー精油とブラックペッパー精油の嗅覚刺激による唾液分泌促進効果

土屋 有花

口腔乾燥症は、口内の健康を急速に損なうだけでなく、心理面においても QOL を低下させることになる。口腔乾燥症状緩和のため、味覚・機械的・嗅覚刺激によって唾液分泌促進の対策が求められている。しかし、味覚刺激は含嗽水等を用いるため、意識レベルが低い対象者や、寝たきり者には危険が伴うことが考えられる。機械的刺激の唾液腺マッサージは、対象者自らがマッサージ動作を行なわなければ、介助者が一定の圧を加えて、マッサージ部位やマッサージ圧の習得が必要だと考えられる。一方嗅覚刺激は、意思疎通の図れない対象者や寝たきり者に対しても、安全に唾液分泌の促進が図れると考えた。

そこで本研究は、ラベンダー精油とブラックペッパー精油の芳香成分を利用し、嗅覚刺激によって唾液分泌の促進効果が得られるのかを明らかにした。

被験者は、唾液腺疾患や口腔乾燥症、嗅覚障害、アレルギー疾患がなく、唾液分泌に影響を及ぼす薬剤を服用中でない明倫短期大学歯科衛生士学科 2 年生および歯科衛生士学科専攻科口腔保健衛生学専攻生の計 6 名（平均年齢 20.5 歳）を、対象とした。

研究方法について、嗅覚刺激は精油を染み込ませたムエットを被験者の鼻孔から約 30mm の

距離で鼻孔と平行に測定者が保持し、被験者には通常の鼻呼吸を行なうように指示した。安静時および嗅覚刺激時の唾液分泌量は、空嚥下を 1 回行なった直後に医療用ガーゼを舌下に挿入し、30 秒間閉口状態で、舌を動かさないように指示した。唾液分泌量の測定は 5 分間の休憩を設け、計 4 回ずつ行ない、4 回の平均値を比較した。また、唾液分泌量測定実施後に嗅覚刺激についてのアンケートを実施した。

その結果、個人によって嗅覚刺激の効果は個人差があり、安静時、ラベンダー精油ならびにブラックペッパー精油の嗅覚刺激時における唾液分泌量の比較では、有意差はなかった。また、アンケートより、女子短期大学生の香りの嗜好は、ブラックペッパー精油よりラベンダー精油にある傾向がみられた。

先行研究では、両精油の唾液分泌量は増加することがすでに明らかになっているが、本研究では、嗅覚刺激の強さが強かったことや、被験者数が少なかったことから統計学的な有意差が出なかったと考える。

今後は被験者数を広げ、香りの嗜好性を考慮したうえでさらなる検討を重ね、歯科衛生士として口腔乾燥症状を訴える患者の摂食嚥下リハビリテーションや歯科保健指導に役立てたいと考える。